

U.S. Indicators

発表日: 2021年8月13日(金)

米国 7月はCPI総合・コアともに前月比で低下

～前年比では高止まりも上昇に歯止め～

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 桂畑 誠治(Tel:03-5221-5001)

21年7月の消費者物価(総合)は、前月比+0.474%(前月同+0.905%)と市場予想中央値の前月比+0.5%と概ね一致した。エネルギーが前月比+1.6%(6月同+1.5%)と上昇した一方、食料品が前月比+0.7%(前月同+0.8%)と小幅低下したほか、エネルギー・食品を除く消費者物価(CPIコア)が前月比+0.329%(前月同+0.878%)と大幅に低下し、市場予想中央値の同+0.4%を下回った。7月は、商品価格の上昇のほか、新型コロナウイルスの感染拡大を受けたサプライチェーンの混乱、規制緩和による外食、宿泊などサービス需要の回復、半導体や人材不足などによってインフレが押し上げられるなか、需要の鈍化に伴う中古車、衣料品等の急低下によって、全体の上昇が抑えられた。

前年同月比では、総合が+5.4%(前月+5.4%)と2カ月連続で08年8月の+5.4%以来の高い伸びとなり、市場予想中央値の+5.3%を上回った。エネルギーが+23.8%(前月+24.5%)と小幅低下したうえ、CPIコアが+4.3%(前月+4.5%)と低下、市場予想中央値の+4.3%と一致したものの、食料品が+3.4%(前月+2.4%)と上昇した。なお、より実態に近い物価動向を示す連鎖CPIコアも+4.18%(前月+4.55%)と低下した。前月比で低下したが、コロナ危機によって前年にインフレ率が大幅に低下したベース効果を背景に前年比の上昇率は高いままとなっている。21年末にかけて、消費者物価は前年に低下した影響で高い伸びを維持するものの、制限緩和に伴う上昇圧力が徐々に弱まることで、緩やかに低下するとみられる。

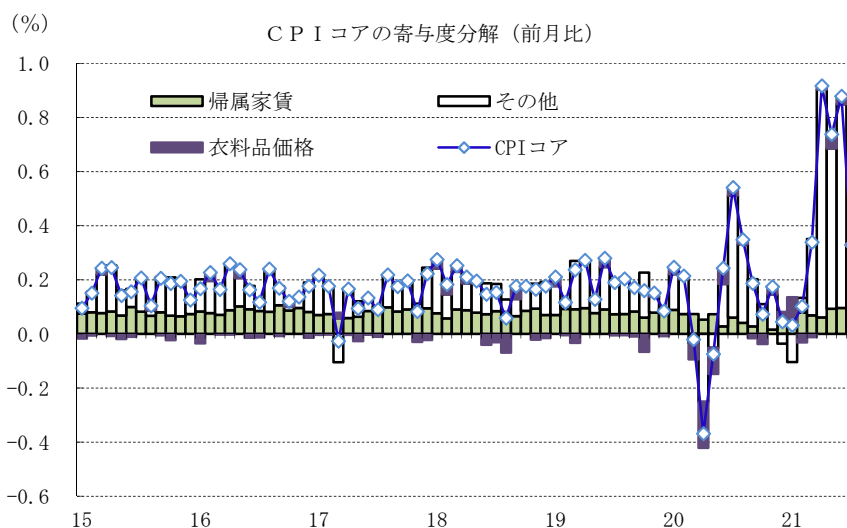
消費者物価

| | 総合 | | コア | | エネルギー | 食料品 | 住宅 | アパレル | 運輸 | 医療 | 商品コア | サービスコア |
|-------|--------|--------|--------|---------|-------|------|------|------|------|------|------|--------|
| | ▲ | (+) | ▲ | (+) | ▲ | + | + | ▲ | ▲ | + | ▲ | ▲ |
| 20/04 | ▲0.697 | (+0.3) | ▲0.369 | (+1.43) | ▲9.5 | +1.4 | +0.0 | ▲4.0 | ▲5.4 | +0.4 | ▲0.6 | ▲0.3 |
| 20/05 | ▲0.098 | (+0.1) | ▲0.075 | (+1.22) | ▲2.3 | +0.7 | +0.2 | ▲2.3 | ▲2.0 | +0.5 | ▲0.2 | ▲0.0 |
| 20/06 | +0.524 | (+0.6) | +0.243 | (+1.19) | +4.4 | +0.5 | +0.2 | +1.4 | +2.3 | +0.4 | +0.1 | +0.3 |
| 20/07 | +0.514 | (+1.0) | +0.541 | (+1.57) | +2.1 | ▲0.3 | +0.2 | +0.7 | +2.5 | +0.4 | +0.7 | +0.5 |
| 20/08 | +0.351 | (+1.3) | +0.348 | (+1.74) | +0.9 | +0.1 | +0.2 | +0.4 | +1.2 | +0.2 | +1.0 | +0.1 |
| 20/09 | +0.246 | (+1.4) | +0.186 | (+1.71) | +1.4 | +0.1 | +0.2 | ▲0.4 | +1.2 | ▲0.1 | +0.5 | +0.1 |
| 20/10 | +0.120 | (+1.2) | +0.072 | (+1.61) | +0.6 | +0.2 | +0.1 | ▲0.9 | +0.5 | ▲0.4 | ▲0.0 | +0.1 |
| 20/11 | +0.179 | (+1.2) | +0.174 | (+1.65) | +0.7 | ▲0.0 | +0.3 | +0.7 | +0.3 | ▲0.2 | +0.0 | +0.2 |
| 20/12 | +0.243 | (+1.4) | +0.045 | (+1.62) | +2.6 | +0.3 | +0.2 | +0.9 | +0.7 | ▲0.1 | +0.1 | +0.0 |
| 21/01 | +0.257 | (+1.4) | +0.031 | (+1.41) | +3.5 | +0.1 | +0.0 | +2.2 | +1.1 | +0.4 | +0.1 | +0.0 |
| 21/02 | +0.355 | (+1.7) | +0.101 | (+1.28) | +3.9 | +0.2 | +0.2 | ▲0.7 | +1.1 | +0.3 | ▲0.2 | +0.2 |
| 21/03 | +0.620 | (+2.6) | +0.339 | (+1.65) | +5.0 | +0.1 | +0.3 | ▲0.3 | +2.7 | +0.1 | +0.1 | +0.4 |
| 21/04 | +0.770 | (+4.2) | +0.917 | (+2.96) | ▲0.1 | +0.4 | +0.5 | +0.3 | +2.5 | +0.1 | +2.0 | +0.5 |
| 21/05 | +0.644 | (+5.0) | +0.737 | (+3.80) | ▲0.0 | +0.4 | +0.4 | +1.2 | +2.1 | ▲0.1 | +1.8 | +0.4 |
| 21/06 | +0.905 | (+5.4) | +0.878 | (+4.47) | +1.5 | +0.8 | +0.4 | +0.7 | +3.6 | ▲0.1 | +2.2 | +0.4 |
| 21/07 | +0.474 | (+5.4) | +0.329 | (+4.27) | +1.6 | +0.7 | +0.4 | +0.0 | +0.6 | +0.3 | +0.5 | +0.3 |

(注) 括弧内は前年同月比

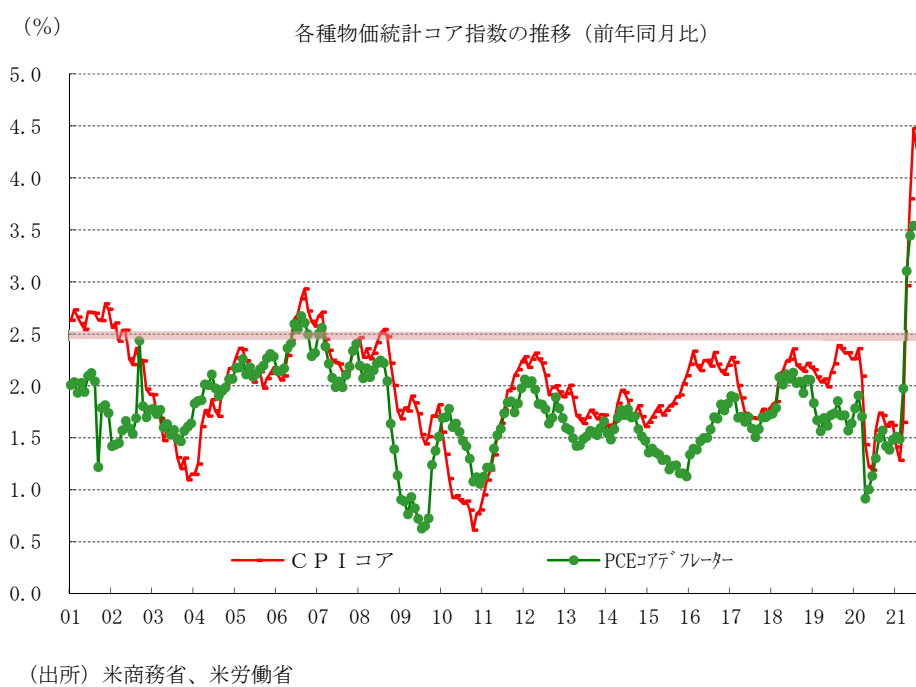
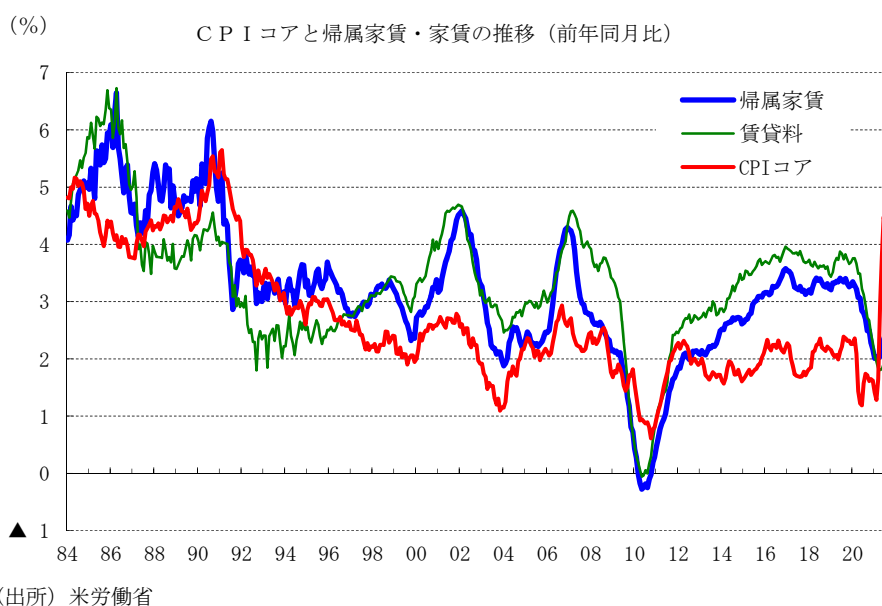
前月比での詳細をみると、CPIコアでは、商品（財）、サービスがともに低下した。商品（財）価格では、処方箋薬などを含む医療用品、ペット・同関連製品や新聞などを含む娯楽商品、情報機器が上昇に転じたほか、自動車部品・装備、教材、タバコ・歯ブラシなどを含むその他財が上昇した。また、新車（+1.7%）は低下も大幅な上昇を続けた。一方、家具・家庭用品が前月に続き+0.1%にとどまったほか、衣料品（0.0%）、中古車（+0.2%）が大幅に低下したため、商品コアは前月比+0.5%（前月同+2.2%）と上昇幅を大きく縮小した。

サービスでは、家事サービスが+0.2%（6月▲0.9%）、インターネットサービスが+0.4%（同▲0.5%）と上昇に転じたほか、専門医療サービスが+0.4%（同0.0%）、病院・関連サービスが+0.5%（同+0.2%）、自動車メンテナンス・修理が+0.9%（同+0.3%）、スポーツイベントや会員サービスなどを含む余暇サービスが+0.6%（同+0.5%）、上下水道・ごみ収集サービスが+0.5%（同+0.4%）、その他個人向けサービスが+1.2%（同+0.2%）と上昇した。また、変動の大きいホテル等宿泊が+6.8%（同+7.9%）と高い伸びとなった。一方、レンタカーが▲4.6%（6月+5.2%）、自動車保険が▲2.8%（同+1.2%）、電話サービスが▲0.1%（同+0.2%）と下落に転じたほか、医療保険が▲0.6%（同▲1.0%）と下落を続け、航空運賃など公共サービスが+0.4%（同+2.4%）と低下した。さらに、賃貸料が+0.2%（6月同+0.2%）、帰属家賃が+0.3%（同+0.3%）、授業料・その他の学費・保育料が同+0.2%（同+0.2%）と小幅の上昇にとどまっていることから、サービスコアは前月比+0.3%（前月同+0.4%）と小幅低下した。



前年同月比での詳細では、財コアが+8.5%（6月+8.7%）、サービスコアが+2.9%（同+3.1%）と低下した。内訳をみると、財コアでは、医薬品など医療用品、情報機器が下落した一方、衣料品、電化製品、テレビやゲームなど娯楽商品、教科書、中古車（+41.7%）、家具（+8.8%）などが上昇した。

サービスコアでは、医療費が低下したうえ、医療保険が下落した。一方、シェアの大きい帰属家賃、賃料が上昇したほか、レンタカー（+73.5%）、宿泊（+24.1%）、航空運賃（+19.0%）、家事サービス（+7.0%）、都市間交通（+4.9%）等が大幅に上昇し、全体を押し上げた。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。